

令和3年度 第1回学校評議員会議事録

- 1 日 時 令和3年7月8日(木) 14:00～15:30
2 場 所 水沢高等学校会議室
3 出席者

○学校評議員(敬称略)

花 田 英 夫	小野寺 和 人	菅 原 敏
板 屋 吉 治	山 下 明	

□教職員

校長 菅野誠二	副校長 田鎖伸也	事務長 冨手明美
総務主任 高橋直文	教務主任 去石 淳	生徒指導課 岡田孝司
進路指導主事 目黒賢哉	保健主事 菅野 純	S S H主任 鈴木竜矢

4 次 第

- (1) 開 会 (2) 出席者自己紹介 (3) 校長挨拶並びに学校経営計画説明
(4) 学校概況説明 (5) 協 議 (6) 閉 会

5 内 容

(3) 校長挨拶及び学校経営計画(14:00～14:15)

本日は2名の新任の方を含め5名全員の評議員においでいただいた。本校教育にとって地域の皆様のご理解とご協力は不可欠であり、今年度の学校経営計画についてご指導、ご助言をお願いしたい。

学校経営計画について(資料参照)

本校は今年創立111周年、697名の生徒63名の教職員が在籍。

現況として奥州地区から直近3年間の平均で単年度208名の中学校卒業生が区外の高校等へ進学している。今年度は卒業生の3割が奥州区外に進学。盛岡地区は入超280名、中部地区入超126名、一関地区入超63名と、奥州ブロックだけがマイナスとなった。

目指す学校像について(2) 取り組み方針より要点解説

ア S S H第4期最終年を迎え、その成果の生徒たちへの還元。イ 学校行事の充実等生徒の自己肯定感の育成。ウ 文武両道の学校を推進する。エ いじめに対する組織的対応とスクールカウンセラーとの連携など安心して学校生活を送れる体制づくり。オ 地域資源を活用したキャリア教育の充実と地域創生の担い手育成。カ 地域との連携を含め、P T A、同窓会、職員総がかりでの「チーム水高」体制の構築による学校運営。

生徒諸君に対して校長が願うこと

ア 主体的に取り組むことによる自己の成長 イ 周りと比較するのではなく、自分自身の成長を大事にする姿勢 ウ 社会の課題を見い出して解決しようと行動できる人材

制服の改定について

次年度から生徒や保護者からの要望を受け入れて改定が決まった。ブレザータイプ、そして、女子はスカートかパンツの選択制となる。ジェンダーレスの方針。

(4) 学校概況説明(14:15～14:37)

副校長より

各種学校行事、部活動などコロナ禍において、注意しながらできるだけ日常を取り戻すべく実施している。また、S S H最終年度の検証を行い、次年度以降の方向性を検討中。最後に大学入試制度の変更に対応して進学校として、引き続き確実な進路指導を進めていく。

各課主任より(資料参照)

生徒課から、部活動への参加が希望制になったが、実際にはあまり影響はなかった。

教務課から、生活時程が部活動や受験指導の関係で時期ごとに異なる。

進路課から、昨年度は卒業生の半分以上が国公立に進学し成果を上げた。

S S Hから、次年度については未定だがこれまでの成果を還元する方法を考えたい。

(5) 協 議 (14:37~15:11) ※ 評議員は○ 学校側の発言は□

- 胆江地区の中学生が区外へ流出していることについて学校の魅力が乏しいのではないか。
- 中学校の話によると流出の原因は、一つには部活動の問題。地区内の水沢高校以外の高校は小規模で十分な活動が担保できていないので私立等に流れると聞いている。また、学区が広く、他の地区に流れやすいという地理的な問題もある。指摘の通り学校の魅力化に努めたい。
- 盛岡一高や有名私立への中学生の流出についてなんとかならないか。
- 登校する生徒たちを見ていると、学校まで保護者が車で送ってくる事が多い。J R の駅まで保護者が送ることと時間的にはさほど変わらず、現状に危機感を抱いている。
- 新しい制服は男女とも替わるのか、私服は認めるのか。
- 制服の変更は男女。昨年までのアンケートの結果、私服は否決されている。
- 6年前の子供の入学時、エアコン設置の要望があった。在学中に出ていた制服の見直しも次年度から実現する。意見が受け入れられて、大変感謝している。今後のこととして、次の点を提案したい。① 登下校時の生徒送り迎えに伴う校門周辺の車両渋滞緩和について、解決をお願いした。② 野球部のグラウンドに電光掲示板を設置してほしい。学校の魅力化につながり、地域住民にも歓迎されるのではないか。③ SSHの取り組みに可能性を感じる。卒業生の活躍とともにこれからは先導的役割を果たしてほしい。
- いじめについて現状はどうか。
- 昨年度の校内での指導はなかったと聞いている。今年度は訴えが1件あったが組織で対応し、具体的事実は確認できなかった。
- 成人年齢18歳への対応はどうなっているか。模擬投票とか権利行使について指導しているのか。
- 大学その他外部より、生徒への啓蒙について共同で動画作成等の話が来ている。投票率の向上等大切であり、今後検討していきたい。
- 学校いじめ防止基本方針について、これがつくられた背景は何か。学校側に策定しなければならぬ事情があったのか。高校の段階でいじめについて取り上げていることに驚いた。
- いじめについては「自死」の防止に対する取り組みという点から国会で審議、平成25年に「いじめ防止対策推進法」が公布された。その後「学校いじめ防止基本方針」は文科省通知で総ての学校で策定することになっている、本校でも方針に則り、アンケートや情報共有のための会議を定期的に行うなど、組織的に対応している。
- 退学者やノイローゼになったりする生徒はいないのか。昔は中学校から入ってきて、成績が伸びなかったり、リーダーシップをとる人材が豊富で、悩む生徒がいたが今はどうか。
- 退学者は近年出ていないが、転学する生徒は若干名出ている。いずれも中学からの不登校的な傾向をそのまま引きずって、学校に来られなくなっている。
- 自分も卒業生であるが、是非本校OBで活躍している先輩を在校生に積極的に紹介してほしい。生徒たちは先輩の活躍を知らないことが多い。在校生が誇りに思えるような学校づくりを期待している。また、野球の甲子園出場を期待したい。
- これまでもそのような企画はあったが、さらに工夫し、在校生に積極的に紹介していきたい。
- 街づくりは「教育」につきる。水高生がプライドを持てるような指導をこれからもお願いしたい。地域に奉仕する志も育ててほしい。日高火防災等地域の行事への参加者が減ってきており危惧している。
- 最後に、次回開催は2月の予定です。本日は大変ありがとうございました。

記録担当 総務課 菅原